

## 基盤的研究・人材育成拠点の訪問結果（概要）

平成 25 年 2 月 19 日  
文部科学省科学技術・学術政策局  
政策科学推進室

### 1. 訪問目的

平成 25 年度より 5 拠点（6 大学）において人材育成プログラムが開始されることを踏まえ、その準備状況を把握するとともに、当面の課題や中長期的な展望に関して拠点関係者と推進委員との意見交換を行う。また、その結果をとりまとめて公表することにより、各拠点の人材育成プログラムの取り組み状況について広く周知を図る。

### 2. 訪問日時、訪問者（詳細は別添 1）

#### （1）訪問日時

1 2 月下旬から 1 月下旬にかけて訪問

#### （2）訪問者

推進委員会より黒田主査および推進委員

文部科学省政策科学推進室担当

科学技術振興機構・研究開発戦略センター担当

### 3. 訪問結果の総括（拠点ごとの訪問結果の概要は別添 2）

- 各拠点においては、来年度から人材育成プログラムを開始するために、カリキュラムやシラバスなど必要な準備が概ね順調に進められている。
- 座学については、科学技術イノベーションに関する基礎的な知識の習得、科学技術イノベーション政策に求められる分析手法の習得、科学技術と社会との接点や関係の理解等のための科目や、分野や課題に対応した科目、科学技術にまつわる倫理的・法的・社会的問題を取り扱う科目などが設定されている。
- また、政策立案に関するプロセスを実践する演習科目や、座学で習得した知識等を活用して、具体的な政策課題に対して政策形成プロセスを経験する実践的な演習科目など、演習や実践に重点を置いている。「政策のための科学」の人材には、座学による知識等の習得とともに、演習等を通じた実践的能力が必要と考えられることから、適切である。かかる観点から、

インターンシップの積極的な実施についても検討していくことが望ましい。

- 政策研究大学院大学以外の拠点については、いずれも大学院の副専攻として開設することとしているため、サーティフィケートを発行するために必要な単位数や、必修科目等にバラツキがみられる。履修終了の判定は、各拠点に委ねられるものであるが、「政策のための科学」の人材育成の目的に照らし、履修により目的にかなう学生の資質が確保されるよう、拠点間において共通的な方針を不断に確認しつつ人材育成を行うことが重要である。
- なお、いずれの拠点にも共通するものであるが、当該（副）専攻プログラムで目指す人材像を明らかにし、可能な限りキャリアパスを明らかにしていくことが重要である。

拠点訪問

- 12月26日(水) 13:00~16:00  
九州大学(箱崎キャンパス)  
(訪問者)  
推進委員会:黒田主査  
文科省:藤原補佐、相馬行政調査員  
JST・CRDS:塩崎フェロー、己斐フェロー
  
- 1月7日(月) 16:30~19:00  
東京大学(本郷キャンパス)  
(訪問者)  
推進委員会:黒田主査、笠木委員、野間口委員  
文科省:藤原補佐、菅原係員  
JST・CRDS:塩崎フェロー、己斐フェロー
  
- 1月8日(火) 14:00~17:00  
大阪大学・京都大学(大阪大学豊中キャンパス)  
(訪問者)  
推進委員会:黒田主査  
文科省:山下室長、蔦田調査員  
JST・CRDS:塩崎フェロー、己斐フェロー
  
- 1月10日(木) 13:00~16:00  
一橋大学(国立キャンパス)  
(訪問者)  
推進委員会:黒田主査、相澤委員  
文科省:山下室長、坂下係員  
JST・CRDS:塩崎フェロー、己斐フェロー
  
- 1月31日(木) 13:00~16:00  
政策研究大学院大学  
(訪問者)  
推進委員会:黒田主査、森田委員  
文科省:山下室長、蔦田調査員  
JST・CRDS:塩崎フェロー、己斐フェロー

## 九州大学の訪問結果（概要）

### 【概括】

- カリキュラムについては、科学技術イノベーションに関する基礎的な知識として、政策史の概観、政策に関連する諸制度や政策手段の多様性などに関する習得、科学技術イノベーション政策の立案、実行、評価を支援するための政策分析手法の習得、科学技術イノベーション政策の知識生産やその普及プロセス及び社会的な合意形成手法の習得など、座学により科学技術イノベーション政策に関する基礎的・基盤的な部分が習得できるよう工夫がなされている。
- また、上記の座学で得られた知見や分析手法などのノウハウを十分に活用しつつ、科学技術イノベーションに関する課題を設定するとともに、その分析を通じて政策提言をとりまとめるまでの一連のプロセスを実践するための演習科目が設定されており、政策立案の現場で必要とされる実践的な能力を身につけることができる工夫がなされている。
- 中長期的には、平成27年度からの専攻化(修士課程)を目指し準備を進めるとともに、九州大学ビジネススクールや九州大学と九州経済連合会が共同で実施している「地域政策デザイナー養成制度」との連携を深めることにより、アントレプレナーシップに関する知見・ノウハウが学べる工夫も施す予定。

### 【カリキュラム・シラバスの整備】

- シラバスの整備をほぼ終えている。学内で承認プロセス中。
- 座学についてはオムニバス形式の科目が中心。それに加えて、実践形式の政策立案演習も設置。
- 社会人学生も対象とするため、平日の夜や土日に開講。
- 4科目8単位以上を修得した学生に対して、サーティフィケートを出す予定。(うち、科学技術イノベーション政策概論(1科目2単位)が必修科目)

### 【学生の募集】

- 科目ごとの登録となり、1科目あたり20名程度の規模を想定。
- 社会人学生(聴講生や科目等履修)については、2~3月頃に募集予定。
- 九州大学に所属する大学院生については、4月当初に各学府と連携して全学的なガイダンスを開催し、4月第2週目までに履修登録を依頼する予定。
- 年度末に企業の方々も巻き込んで「科学技術イノベーション政策と地域の持続的な成長」と題するシンポジウムを開催するとともに、URAの研修会を予定しており、社会人学生のPRの場としても位置づけている。

### 【人材育成プログラムに関連する情報の所在】

[www.sti.kyushu-u.ac.jp/index.php](http://www.sti.kyushu-u.ac.jp/index.php)

### 【訪問者の所感】

- 九州大学の特徴である「東アジア及び地域のイノベーション」を重視し、指導内容や必修科目の設定について中長期的に検証しつつ進めていただきたい。

## 東京大学の訪問結果（概要）

### 【概括】

- カリキュラムについては、科学技術イノベーションに関する基礎的な知識として、政策プロセスや制度論、エビデンス構築手法など、座学により科学技術イノベーション政策に関する基礎的・基盤的な内容が習得できるよう工夫をしている。
- また、選択科目として多様な展開科目（評価とマネジメント、テクノロジーアセスメント等）、分野別選択科目（宇宙、海洋、ICT、医療等）を開設し、学生の興味関心に応じた具体的な課題を取り上げ、課題解決に取り組む中で理解を深めることができる環境が整えられている。
- さらに、必修科目「科学技術イノベーション政策研究」は、具体的な政策課題に関する政策形成プロセスを一貫して経験させる内容となっており、他の科目で修得した知識、手法等を用いた実践を通じて実践的能力として定着させるとともに、プロセスを一貫して経験させることにより、知識や手法の限界を知り更なる知識の深化や多様な手法の習得など学生の学習意欲を喚起するような工夫がなされている。
- 育成する人材としては、政策形成人材、科学技術イノベーション政策研究人材を想定しているが、前者については、毎年度、数十名の学生が国家公務員として政策形成のキャリアパスを歩むことから、これらの人材に対し人材育成プログラムの提供することが当面のターゲットになると想定。政策研究人材については、「政策のための科学」としての専攻（修士、博士課程）を有しないことから、他の研究科や大学等での学位修得が必要となる。

### 【カリキュラム・シラバスの整備】

- 2～3月にかけて内容を確定させ、4月に公表する予定。
- 12単位以上を修得した学生に対して、サーティフィケートを出す予定。（うち、事例研究・科学技術イノベーション政策研究（1科目2単位）が必修科目）

### 【学生の募集】

- 4月に説明会を開き、受講を希望する学生に登録をしてもらう。
- 最終的に年間15名程度の修了者を確保したいので、歩留まりを考えると30名程度の登録を期待。
- 実践的な内容を含む科目については、指導の都合上、受講者数を制限する可能性がある。
- 社会人学生は想定していない。

### 【人材育成プログラムに関連する情報の所在】

stig.pp.u-tokyo.ac.jp

### 【訪問者の所感】

- 人材育成プログラムの内容や科目の設定などについて、学生のニーズ把握やキャリアパス開拓に留意しつつ進めていただきたい。

## 大阪大学・京都大学の訪問結果（概要）

### 【概括】

- カリキュラムについては、座学よりも実践形式を重視しており、ホットトピックを扱うディスカッション型授業や各人の専門性に応じた研究プロジェクトを中心に設計。科学技術イノベーション政策に関する基礎的な知識は、各分野で活躍されている方を講師としたオムニバス形式の講義にて習得し、各人の研究を進める上で必要とされる専門知識の習得は、選択科目にて習得できるよう工夫がなされている。
- 阪大と京大で総長レベルの協定書を結んでおり、学生は両大学の講義が受講可能なほか、上記ディスカッション型授業については両大学合同で実施するなど、緊密な連携が取れたカリキュラムが特色。
- 育成する人材像としては、主に理工系の学生に対し、科学技術の倫理的・法的・社会的問題（E L S I）に関する基本的素養を身に付けさせることが目標。本素養を通じて、社会的課題や各人の研究のフレーミングを認識する能力、社会的価値を発見する能力、つなぐ能力、社会実装する能力等を身に付けさせることを目指している。

### 【カリキュラム・シラバスの整備】

- シラバスの整備および学内承認はほぼ完了。
- 両大学に在学する修士、博士課程の学生を対象。社会人については、学生として所属すれば履修可能。
- 14単位を修得した学生に対して、阪大・京大共同でサーティフィケートを発行。阪大は8単位修得でサーティフィケートを発行するライト版も別途用意。

### 【学生の募集】

- 阪大で10名弱、京大で5名弱を想定。
- 4月初旬に学生への説明会を開催し、4月中旬に履修登録が行われる予定。履修を希望する学生には、動機インタビューなどを通じて、選抜したい意向。

### 【人材育成プログラムに関連する情報の所在】

[stips.jp/](http://stips.jp/)

### 【訪問者の所感】

- 総合大学である両大学間の連携の利点を最大限に活かし、引き続き十分な連携を図って体系的な人材育成を進めていただきたい。
- 学生の質・量を継続的に確保すべく、学生のニーズ把握やキャリアパス確保にも十分留意していただきたい。

## 一橋大学の訪問結果（概要）

### 【概括】

- カリキュラムについては、イノベーション研究センターの全教員により論文指導を行う体制を確保するとともに、社会科学者と技術者のコラボレーションの講義など、社会科学系研究者と自然科学系研究者との間をつなぐことを目的とした講義を置くなど、工夫を行っている。
- 拠点運営委員会には商学研究科のほか、経済学研究科、経済研究所、国際企業戦略研究科、社会学研究科、法学研究科の教員もメンバーに入り、学内横断の協力体制を構築している。
- キャリアパスとして、一橋大学の得意分野である経済学・経営学の観点から科学技術イノベーション政策の政策形成プロセスに関与できる研究者を想定している。

### 【カリキュラム・シラバスの整備】

- 必修科目については、模擬講義を行い、開講までに課題等を確認しているところ。
- 必修科目の開講は、水曜日の18時～21時と土曜日の9時～15時を予定している。これは平成26年度から学外学生を受け入れることを前提に、社会人が参加可能な時間割としているところ。
- 14単位を修得した学生に対して、サーティフィケートを出す予定。うち、「イノベーション研究方法論」「イノベーションと経営・経済・政策」「先端科学技術とイノベーション」「イノベーションリサーチセミナーⅠ・Ⅱ」の10単位が必修。

### 【学生の募集】

- 平成25年度は5名程度を想定。説明会については12月（商学研究科学生向け）、2月（全学向け）を開催（予定含む）。選考は3月に予定しているが、10月にも行うことを計画している。
- 平成26年度から学外からも学生を募集することを予定。

### 【人材育成プログラムに関連する情報の所在】

[hitotsubashi.impp.blogspot.jp/](http://hitotsubashi.impp.blogspot.jp/)

### 【訪問者の所感】

- 一橋大学の特徴である「イノベーションと経営・経済・政策」を重視しつつ、学内・学外連携を一層進めていただきたい。
- 学生の質・量を継続的に確保すべく、学生のニーズ把握やキャリアパス確保にも十分留意していただきたい。

## 政策研究大学院大学の訪問結果（概要）

### 【概括】

- カリキュラムについては、まず経済学、政治学、計量データ分析・解析手法等をベース知識として習得した上で、イノベーション政策に特化した専門科目群を修得していく設計。座学の科目群は修士・博士とも共通。修士・博士で、履修単位数とリサーチセミナーと呼ばれる論文指導・執筆の期間と要求レベルが異なる。
- 育成する人材像としては、主に現役行政官等を想定し、科学的なアプローチで政策立案ができるような知識と体系的理論を身に付けさせることが目標。
- 拠点間共同プログラムについては、政策研究大学院大学が主導する形で平成24年度にサマーキャンプ、国際シンポジウムを実施するとともに、拠点間で連携して教材作りや科目交換などを具体的に検討するために拠点間連絡会及び出版物編集委員会を設置するとともに開催。

### 【カリキュラム・シラバスの整備】

- シラバスの整備は完了。
- 現在の専任教員は6名。来年度は数名の増員を計画。
- 修士課程は1年間フルタイム＋6か月間パートタイム就学で、30単位を修得し、ポリシーリサーチペーパーを提出した学生に対して学位を授与。
- 博士課程は1年間フルタイム＋2年間パートタイム就学で、14単位を修得し、博士論文を提出した学生に対して学位を授与。
- 座学については、修士課程・博士課程ともに初年度（フルタイム）に集中して受講してもらうことを想定しており、春夏期は経済学、政治学、計量データ分析・解析手法等の基礎的科目を、秋冬期はイノベーション政策に関連する科目を履修してもらうことを想定。

### 【学生の募集】

- 修士最大10名程度、博士3名程度が目標であるところ、日本人の平成25年度入学予定者は修士及び博士はともに現在選考中（修士は2月中旬に第3回目の募集を予定）。博士留学生は1名入学予定。

### 【人材育成プログラムに関連する情報の所在】

[www.grips.ac.jp/jp/pstudents/phd\\_programs/innovation/](http://www.grips.ac.jp/jp/pstudents/phd_programs/innovation/)

### 【訪問者の所感】

- 総合拠点として、拠点間共同プログラムを主導しつつ、拠点間で共通の目標を掲げつつ十分な連携の下、体系的な人材育成を進めていただきたい。
- 現状では、学生の質・量を継続的に確保できるかどうか懸念されるため、他の領域開拓拠点と協力しつつ、学生のキャリアパス開拓に努めていただくとともに、修士課程学生のリクルートを積極的に進めていただきたい。